

5/15に御年99歳を迎える瀬戸内寂聴さん

愛に始まり、愛に終わる 108の名言集 4/26発売



『愛に始まり、愛に終わる
瀬戸内寂聴108の名言集』
定価：1540円(税込)
発売日：2021年4月26日

株式会社宝島社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:蓮見清一)は、作家で僧侶の瀬戸内寂聴さんの名言を収録した書籍『愛に始まり、愛に終わる 瀬戸内寂聴108の言葉』を、2021年4月26日(月)に発売します。

瀬戸内寂聴さんは2021年5月15日に御年99歳、数えて100歳を迎えられます。本書は、寂聴さんの新聞や雑誌でのインタビューや対談、エッセイや法話などから、「愛」をはじめ「生」「老」「死」などをテーマに、心に響くメッセージを厳選し108点収録しました。「夜中にむっくり起き上がって『あなたが好き』ってメールしてもいいんですよ」、「笑っているところに不幸は来ないですよ。お互い笑っていればけんかなんかできないでしょう?」——。出奔や離婚、得度など、多くの経験を重ね、生き方に迷う大勢の人々を励ましてきた寂聴さんならではの「生きる知恵」や「人生哲学」が詰まっています。元気を出したいとき、前を向きたいとき、寂聴さんの言葉がそっと背中を押してくれる一冊です。

長年親交を深めてきた、黒柳徹子さん推薦!

「寂聴さんの一生が、ユーモアたっぷりに、ちりばめてある。『いがみあうのは、やめよう。器量が悪くなる』名言です」

読者に向けた、寂聴さん書き下ろしのメッセージ(「生きたあかしとは——まえがきにかえて」より抜粋)

人は愛するために生れてきたのです。

九十九歳、数えて百歳まで生きてきて、さすがに「死」を目の前にして、つくづく想うことは、この一事です。(中略)

どんなに辛いと苦しんだ恋愛でも、全く恋愛を知らずにこの世を終る人たちより、幸せな一生だと、私は思います。

どうか恐れず恋愛をして下さい。今からでも遅いということはありません。

あなたの生きた何よりのあかしの一つです。そのために、この本が少しでも、道しるべの役目になることを祈ります。

ユーモアたっぷりで心に沁みる「寂聴節」を厳選し、108点収録

第一章:愛について 第二章:生について 第三章:情熱について 第四章:無常について
第五章:老いについて 第六章:業について 第七章:死について 第八章:祈りにについて

●恋愛について

男と女の間には
永遠に渡りきれない川が流れていて、
その川を無理に飛び越えて
一緒になろうとするから、
川にポチャンと落ちて沈んでしまう。

「どんなに激し愛し合っている、男と女は違う」と語って
—2002年9月

●若さについて

年齢というのは
自分で何才だと思った瞬間から、
その年になるんです。

「私はいつも、自分の年齢なんて忘れてる」と語って
—2007年9月

●覚悟について

悪口を言われたっていいでしょ。
人に合わせたところで、その人が税金を
払ってくれるわけでもなし(笑)。

自分の人生を生きることの大切さについて語って—2009年3月

●老いについて

年をとったら
マインドチェンジが必要です。
考え方を換えること、
ものの見方をちよつとずらすこと。
だって、変えないとホントしんどいもの。

闘病中、「もう闘いのをやめよう」と頭を切り替えた経験を語って
—2017年10月



写真：篠山紀信

著者:瀬戸内寂聴(せとうち・じゃくちよう)プロフィール

“66歳年下”の寂聴さん秘書・瀬尾まなほさんの取材、相談可能です!

1922年、徳島生まれ。東京女子大学卒。57年、『女子大生・曲愛玲(チュイアイリン)』で新潮社同人雑誌賞受賞。61年、『田村俊子』で田村俊子賞受賞。63年、『夏の終り』で女流文学賞受賞。73年、平泉中尊寺で得度(旧名、晴美)。その後、『花に問え』で谷崎潤一郎賞、『白道』で芸術選奨文部大臣賞、『場所』で野間文芸賞など次々に受賞。98年、現代語訳『源氏物語』完結。2006年、文化勲章受章。近者に掌(てのひら)小説集『求愛』、長篇小説『いのち』などがある。